

1 情勢報告

1 ミヨウガの現地検討会を開催しました。



情報交換の様子

ＪＡ土佐くろしおミヨウガ部会は19日、今年度3回目となる池ノ内地区の現地検討会を30名の出席のなかで開催しました。

会では、ほ場主の篤農家から施肥方法などの肥培管理について積極的な発言があり、農家間の意見交換が活発に交わされました。ある若手農家からは「収穫期の5月にもう一度見たいね」という要望があり、ベテラン農家からは「ひとんくのミヨウガを見ることは参考になる」といった現地検討会に期待する声が聞かれました。振興センターは今後の栽培管理とハダニに対する天敵による防除技術について情報を提供しました。

現地検討会の4回目の実施については部会やＪＡと協議して要望に沿えるようにします。また天敵などを活用してＩＰＭ技術の組み立てを行います。

第2回普及推進協議会を開催しました。



農業者・市町・ＪＡ関係者の協力を得て2月3日（ＪＡ津野山）、2月17日（ＪＡ土佐くろしお）管内の第2回普及推進協議会を開催しました。

会議では、平成21年度の普及指導活動の主な成果や平成22年度普及指導計画の概要について説明を行った後、意見交換を行いました。

農家からは「中山間地域の経営モデルが出来て経営計画の策定に大変役だった」、「ハナニラは優良種子の確保をしていく必要がある」、「到達目標を平均反収で示しているが、結果としてどうしてそうなったか、個々の農家のデータを示すなどもう少し踏み込んで現してもらいたい」などの意見や提言が出されました。これらの意見を今後の普及指導活動に繋げていきます。

ＪＡ土佐くろしおイチゴ部会第5回定例研修会を開催しました（1月27日）。



研修会の様子(ＪＡ土佐くろしお女性の家)

厳寒期の草勢維持対策、炭酸ガス処理技術等に関する研修会をＪＡ土佐くろしおと連携して開催しました。併せて、炭疽病抵抗性品種の紹介も行いました。

厳寒期には、培地の地温が低下しやすく、草勢が低下しやすい時期ですので、草勢診断しながら、温度及び電照管理、炭酸ガス施用技術等を駆使して適正草勢コントロールを行っていくことが必要であることが理解されました。炭疽病抵抗性品種については、三重県が開発した「かおり野」という品種で、2月に三重県研究所及び現地栽培状況の調査を実施しましたので、3月の第6回定例研修会で調査報告と今後の取組について協議することになりました。

次回の定例研修会は、春期の管理作業、育苗技術等を中心とした内容で3月中旬に開催されます。

JA津野山で農協職員への農薬安全使用講習会を行いました(1月27日)。



講習会の風景

ＪＡ津野山ではＩＳＯや点検シート(GAP)、ＩＰＭ等、地域で環境保全型農業に積極的に取り組んでいます。そのような環境の中、種々の栽培資材を扱う農協では、資材の誤った使用が起きないように生産者に伝える役割を担っています。中でも農薬の取り扱いに関しては重要で、津野山地域技術ＰＴ会では、ヒヤットとなることが起きる前に、農薬を売る段階でハッと気づき、リスクを事前に回避できることを狙い「ヒヤリ・ハッと研修」と名付け、農協職員への農薬安全使用講習会を開催して資質の向上を図りました。

当日は、休日の日直等で農薬を販売することのある職員も含め、ほぼ全員参加し、ロールプレイング形式で講習を行いました。実技を行う中、活発な質疑が行われ、参加者全員が課題点や改善点を共有することができました。農協では農薬の販売段階でもリスク回避に努め、生産者を支えることができるよう意識の統一を行いました。今後も振興センターでは技術ＰＴ会の活動の充実に努め、安全・安心な選ばれる産地作りの活動を支援して行きます。

5 「農家支援会議」で経営改善支援の進捗状況を確認し、今後について検討しました（2月2日）。



農家支援会議

JA土佐くろしお「農家支援会議」では経営改善支援の進捗状況を確認するために、営農課の経営担当と協力して、対象農家13戸の課題の共有状況、これまでの改善への取り組み状況、12月末までの収量や清算金の状況、購買未収金等の動きについて報告、検討しました。

その結果、収量目標を下回っていたり購買未収金が増加している農家、今後の取り組みが特に重要な農家については、再度農家面談を実施し、個別農家チームとしてさらに重点的な支援をしていくこと、また栽培技術力が向上した農家については農業経営負担軽減支援資金の活用を検討すること等が話し合われました。

次回は4月上旬に再度中間検討を行い、園芸年度終盤に向けての取り組みについて検討していきます。併せて次園芸年度のリストアップも行っていきます。

⑥ 「上の加江地区集落座談会」を開催し、水田裏作の有望品目の導入について話し合いを行いました（2月10日）。



中土佐町上の加江地区では、以前から圃場整備した水田を有効活用できる有望品目がないかと声が上がっていました。そこで、役場、JA、振興センターで構成する「農業振興PT会」において検討しました。後日、地域のリーダーを対象にした「上の加江地区集落座談会」を開催し水田裏作における有望品目の導入について話し合いを行いました。

振興センターからは、県の新規事業の説明と露地の品目事例を紹介しました。生産者からは、水田裏作を導入した場合の翌年の稲の生育に関する質問や、紹介事例以外の品目についての質問等がありました。

話し合いを地区に持ち帰って検討するということになりました。

2 今後の普及活動の動き

須崎農業振興センター 農業改良普及課
(連絡先：0889-42-3255)

時期	タイトル	内容	備考
2月26日	第2回JA四万十大野見管内農業改良普及推進協議会	平成21年度普及指導活動実績及び平成22年度普及指導活動の概要について協議	
2月26日	JA四万十大野見管内ニラ現地検討会	まとまりのある園芸産地育成事業の一環としての現地検討会	
3月2日	ハナニラ研究会	今後の管理作業、先進地調査(環保センター)等	
3月5日	須崎地区ニラ現地検討会	まとまりのある園芸産地育成事業の一環としての現地検討会	
3月5日	JA土佐くろしおピーマン部会現地検討会	まとまりのある園芸産地育成事業の一環としての現地検討会	
3月8日	JA土佐くろしおハウスシトウ部会現地検討会	まとまりのある園芸産地育成事業の一環としての現地検討会	